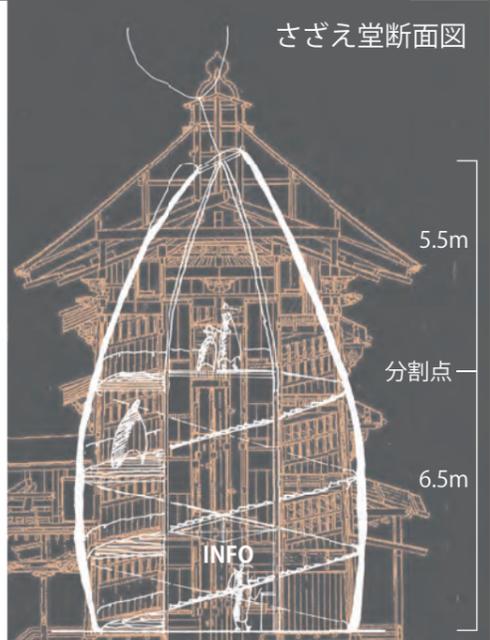
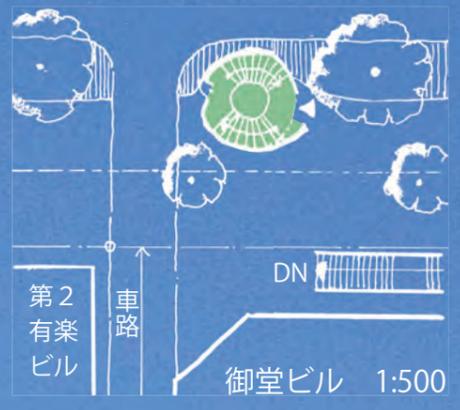
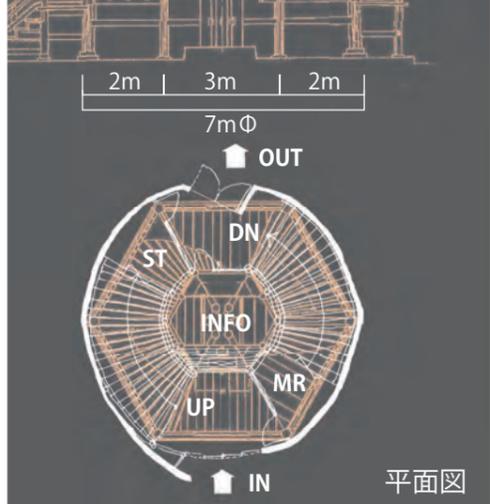


# そぞろ歩くイモガイ - INFORMATION CENTER OF MODERN OSAKA

## そぞろ歩く御堂筋



●銀杏材使用の伝統木造軸組工法の架構は不燃ハードテフロン系シートの外装を脱いだ後接合金物部で上下に分割され運ばれる。▼メス貝は小型で4社寺の境内にてi機能を分担し、年に2度3月ひな祭り7月七夕にはオス貝と合体する。●都市景観とらせん貝の名所にグッゲンハイム美術館がある。このさざえ堂は後々「御堂筋物語」の舞台となるだろう。



●「大きなイモガイが御堂筋を歩いたらオモロイナー」から始まった物語。●海外の主要観光地では目立つ場所にiセンターが置かれ親しまれている。大阪市文化財の銀杏並木をもつ御堂筋にも「歩き方」を教えてくれるiがほしい。●観光大阪のランドマーク、現代版さざえ堂、iマークタワーの提案です。木造2階建て二重螺旋通り抜け回廊延60mを内包し、途中の窓は新しいビューポイントとなる。木組み現しの内部は吹抜け回廊で日本の伝統的建築術を

楽しめる。最新IT&AV対応により多言語対応の大阪観光、各種イベントやアート展、周辺建築街歩き情報を総覧できる。雌雄2体が対となりパワースポットを移動する。●御堂筋の新景観フォトスポット、各種イベントの広告塔となる。又貝周辺は自転車押し歩きエリアとし、貝が外出中の跡地は観光バス乗降待合い場となる。外国客には「御堂筋でダビンチの二重螺旋を探せ！」をキャッチコピーしたい。

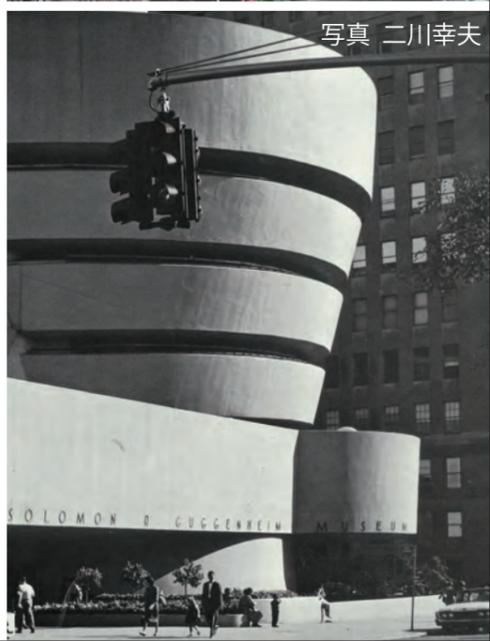


写真 二川幸夫